

学童保育のすべてⅣ

# 父母の役割と父母会活動

全国学童保育連絡協議会 編



一声社

IV

父母の役割と  
父母会活動

全国学童保育連絡協議会 編

一声社

〈編集委員〉

上田裕子  
大倉弥生  
小杉弘子  
田中島晁子  
福家和枝  
松本紀子

■全国学童保育連絡協議会所在地

東京都文京区本郷2-26-13

TEL 03(813)0477

学童保育のすべて IV

父母の役割と父母会活動

定価 六〇〇円

一九七九年九月二十三日第一版発行 ©  
一九八五年二月十日第五版発行

編者 全国学童保育連絡協議会

発行所 株式会社 一声社

東京都文京区本郷三十四-十  
電話 〇三-八一三一〇二八一  
振替 東京 七-一八七六一八

印刷 新協印刷株式会社

落丁、乱丁本はおとりかえいたします

# 目次

I こんにちは！ 学童保育 7

一、こんにちは！ 学童保育 8

1 学童保育との出会い／8

2 子どもを学童保育に入れるとき／9

3 おもちゃはあるのかな——／10

4 お母さん、どうして働いてるの？／11

5 リズムある生活づくりを／12

6 いよいよ入所／13

7 指導員と話そう／14

8 学校との連絡／15

9 家でも学童保育の話を／15

二、父母会はみんなの子育ての場 16

1 父母会は何のため？／17

- 2 「ウチの子がね……」／18
  - 3 学童保育をやめさせようか／19
  - 4 仕事や職場を語ること／20
  - 5 電車の中で、お店の前で／21
  - 6 親の役割と指導員の役割／22
  - 7 父親の参加／24
  - 8 地域の子どもたちとも／25
  - 9 父母会がなかったら／26
  - 10 育ちあい深いきずなを／27
- コラム** 息子につられて私も出発／28  
励まされ、叱られ成長した私／31

## II 父母会のつくり方

### 一、父母会とは？

### 二、父母会をつくるには

- 1 キッカケは？／37
- 2 よびかけ／38

35  
36  
37

- 3 規約は／39
- 4 会費は／40
- 5 役員の選出／41
- 6 結成総会／41
- 7 指導員は会員か／42

### Ⅲ 父母会の活動

#### 一、どの父母会にも共通した活動

- 1 父母会の集まり／47
- 2 ニュースの発行／49
- 3 コラム みんなに読まれる工夫／51
- 3 新しい父母を迎えるにあたって／53
- 4 地域に理解を広げる／54

#### 二、公立公営の場合に必要な活動

- 1 子どもたちのために楽しい企画を／60
- 2 改良・改善の要求の仕方／64

- 3 入所・定員問題／66

### 三、共同保育の場合に必要な活動

- 1 共同保育と委託のちがい／69
- 2 学童保育の運営／70
- 3 地域の運営委員会とのかかわり／81

69

### 四、自治体交渉

- 1 地方議会と行政当局と／85
- 2 行政当局との交渉／86
- 3 交渉以外のアピール／87
- 4 資料と調査／89
- 5 請願と陳情／89
- 6 請願の時期／90
- 7 請願の内容／90
- 8 請願署名用紙の作り方、署名の集め方／91
- 9 紹介議員のためのみ方／92
- 10 審議と傍聴／92

85

11 可決されたのち／92

## IV 協議会のつくり方と活動の仕方

95

1 協議会をどこにつくるか／96

2 協議会を構成するのは？／97

3 結成するには？／98

4 活動の内容／99

5 財政／102

6 役員／102

### 資料の頁

父母会結成のおさそい／105

父母会の規約／106

父母会活動の記録／108

父母会の会計報告／110

父母会ニュース／112

学童まつりのおさそい／113

請願書／114

104

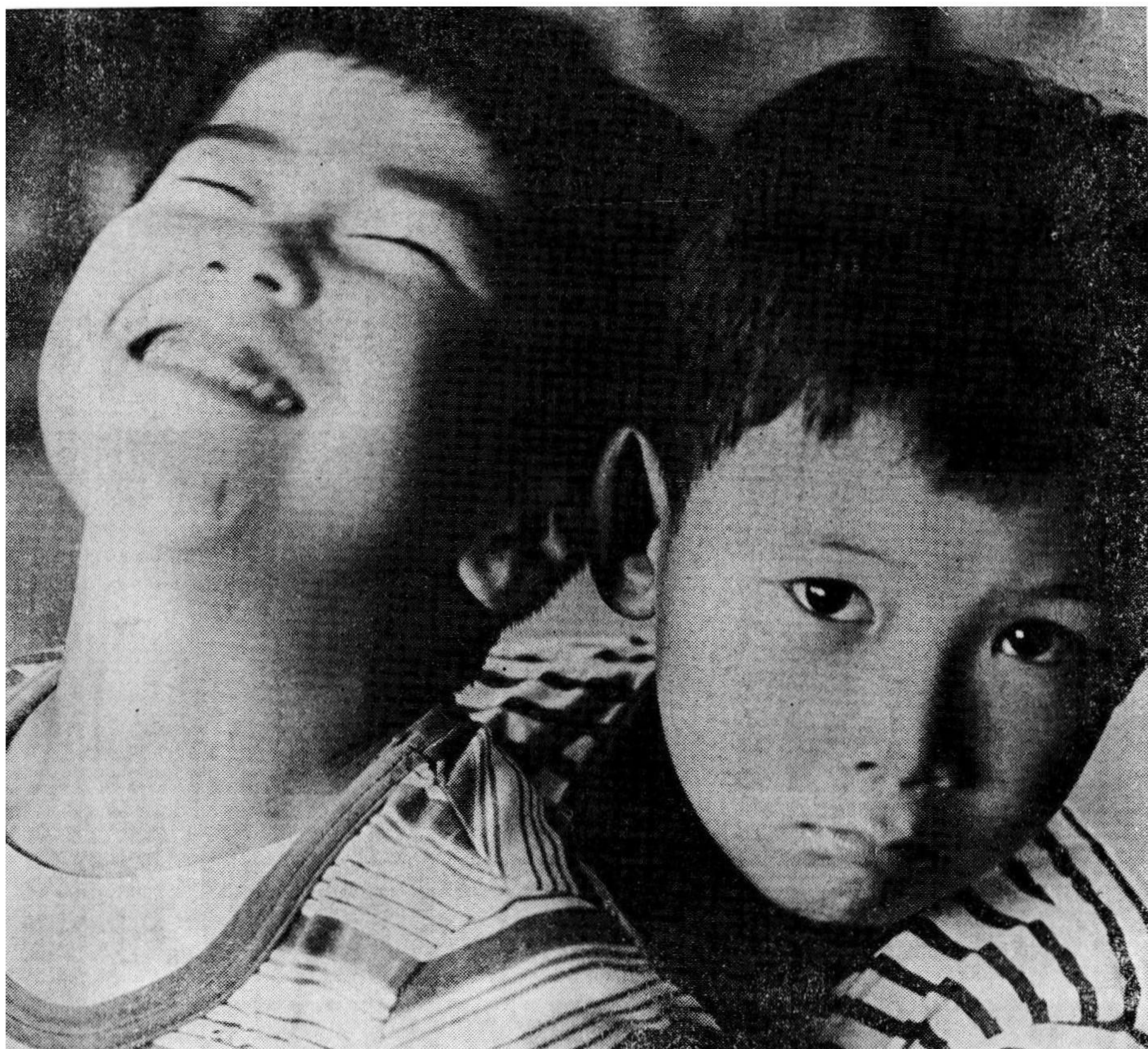


請願の結果についての通知	115
区長への要望書	116
連絡協議会発会式のおさそい	117
協議会の経過報告	118
” 活動方針	121
” 会計報告	122
協議会の規約	123
協議会の要望書	125
県協議会のニュース	128
研究会のおしらせ	130
研究集会のおしらせ	133

写真	岸本正義
装幀	志賀紀子

I こんにちは!

# 学童保育



## 一、こんにちは！ 学童保育

とうとう一年生。これから学童保育の生活が始まりますね。子どもたちは大きな期待と誇りに胸ふくらませていることでしょう。お父さんやお母さんの感慨もひとしおです。就学の時期は、子どもにとっても親にとっても大きなフシにあたります。子どもたちは、ぐんと広い世界に船出して、たくましい生活を身につけていきます。親の方も子どもたちに負けないように、がんばりましょう。

### 1 学童保育との出会い

はじめて学童保育に出会ったのは、どんなきっかけだったのでしょうか。

私のはじめて学童保育に出会った日のことを、私ははっきり思い出します。ある秋の日の暮れていく保育園の門の前で、四・五人のお母さんが立ち話をしていました。それぞれ保育園からひきとった子どもの手をひいたり、自転車にのせたまま熱心に話しあっています。私が三歳の長男をひきとり園から出てきても、まだ夢中で話しています。思わず「何を熱心にはなしてるの？ これから買物でしょう。お店しまっっちゃうわよ。」と声をかけたのです。「学童保育をつくろうという話を

しているのよ。お宅はまだいいけど、この子たち来年学校なのよ。困っちゃってね。」これが私の学童保育への最初の出会いでした。「私も力貸すからがんばってね。」と別れながら、入学となると大変だなと思いました。ちょうどお腹にいた二番目の子の保育先を探すことの方が私の当面する問題でしたが、産まれ育っていく子どもの成長を喜ぶより先に、悩まなければならぬ働く母親の切なさを感じたものでした。

それは入学と同時に職場をやめる母親の多い中で、何とか新しい道をひらこうとする胎動でした。十数年前、まだ学童保育について人ごとのようだった自分が、まさかその後ずっと学童保育とつきあうことになるうとは、夢にも思っていませんでした。

私のように、最初に学童保育づくりの運動に出会うこともあるでしょう。すぐ近くに学童保育があり、保育園を出た子どもたちが、当然のように入っていくこともあるでしょう。入学してから学校の先生にすすめられる場合もありましょうし、自治体の広報を読んで知った人もいます。学童保育との出会いは、人によってまちまちだと思います。しかし子どもを学童保育に入れるのは、親の意志であり、この時から学童保育とのかかわりが、いや応なくはじまります。

## 2 子どもを学童保育に入れるとき

子どもを学童保育に入れたいと思うのは、親が働くために安心してあずけられる所として考えるからでしょう。これは親の都合と意志といってもよいのではないのでしょうか。親の立場からそう考えられても、子どもにとってはどんな場でしょうか。子どもが不安をもたずに入っていけるところ

でしようか。

小学校では入学前に身体検査等、一日入学のようなことをやりますが、学童保育ではあまり聞きません。事前に親むけの説明会をやる所では、その学童保育のつくられた歴史や、中ではどんなことをやり、どんな風に運営されているか等を話しますが、そのような説明会をやっているのは共同保育の所が多いようです。親の都合と意志で学童保育に通うことになる子どものために、まず親自身が、学童保育についての知識を十分得て、子どもに話してあげられるようになるのは親の責任といえましょう。ですから説明会のような機会があれば必ず出席することです。保育園で就学予定の子をもつ親があつまつて、学校の先生や学童保育の指導員・先輩の父母にきてもらい、就学準備の話をしてもらうこともありますが、特にはじめての就学児をもつ親には好評のようです。

### 3 おもちゃはあるのかな――。

「学童保育ってどんなところだろう。どんな子がいるのかな。先生は男の人かな。やさしい人だといいな。お勉強をするところかな。おもちゃもあるのかな……」学童保育の話聞いた子どもは、こんなことを次々と考えます。保育園や幼稚園で集団保育はほとんど体験していますが、学童保育はかなり違っていているはずですよ。説明会のような子どもを連れて学童保育を訪れる機会があればいいのですが、そのような機会がない時は、子どもを連れてぜひ見にいって来るとよいでしょう。「どんな所か行って見てこよう。誰か知っている子はいるかな。先生にも会ってごあいさつをして、何をやるのか聞いてみようよ。」百聞は一見にしかずです。子どもの不安を、できる限りとり払

うことが必要です。

家から学校へ、学校から学童保育へ、学童保育から家への道を何回か歩いてみましょう。子どもの目の高さで、子どもと話しながら、一緒に歩いてみましょう。風の日、雨の日のこと、危ない所を注意しながら見に行ってください。

#### 4 お母さん、どうして働いてるの？

子どもの入学を機会に働きはじめるお母さんもふえています。ずっと働いてきたお母さんも、ここでちょっと考えてみてください。保育園ではお友だちのお母さんもみな働いていました。でも学校では違います。はじめのうちは給食もないので、お弁当をもって登校することになりますし、下校の時も、家とは反対の方向にむかう子もおりましょう。「この子、学校へお弁当もってきてるよ。」といわれて泣き出したり、下校時に、学童保育へ行かず家へ帰ってしまい、鍵のかかったドアの前で困っているのを、探しにきた指導員がみつけた等の話もよく耳にします。

まだまだ母親が働くことや、学童保育がどんな所かということについて、世間のすべての人が正しい認識と評価をもっているといい難いのが現状です。それは直接に子どもにはねかえってきません。暮れ方、ランドセルを背負って帰ってくる子が、「あの子、一年生なのに今頃帰るよ」と言われた時、「学童保育に行ってるのよ。」と答えてほしいと思いました。

入学を機会に、お母さんが働くことについて、仕事のことや職場のことも含めて、子どもの理解が深まるように話しておくことは大切なことです。それは、とりもなおさず自分の働く決意にもな

り、家族全体が理解を深めることにもなります。

## 5 リズムある生活づくりを

就学の前に大切にしたいこと、特に共働きの場合にきちんとしてほしいのは、子どもにリズムカルな生活習慣をつけることです。寝る時間、起きる時間は勿論ですが、衣服の着脱、朝食、洗面、歯みがき、排便など、登校までの一連の行動をきちんと身につけることです。また家へ帰ってから、プリントや連絡帳を出して今日の連絡ごとを話し、明日の準備をすることです。大人と一緒にになってダラダラとテレビをみていたり間食をしたりすれば、当然翌朝にひびいてきます。学校の生活にも影響します。これらは子どもの入学に際して誰もが心がけなければならぬことですが、共働きの場合は、朝夕の時間も短かいので、より以上に要求されることでしょう。

どのようにしたら身につけることができるでしょうか。勿論幼児期から一つずつ身につけさせていくことですが、大事なものは親がきちんとした生活をするということです。父親だけは例外ということにならないように。この就学の時期は、子どもにとっても気分新たな成長のフシでもありますから、よい習慣の確立には絶好の機会となりますから、励ましながらがんばってほしいと思います。

朝食を食べなかつたり、喫茶店のモーニングサービスののような食事で顔も洗わずに登校する子どもや、排便が三・四日おきにしかないという子どもがふえています。健康は破壊されますし、学習意欲も低下し、遊びの中にも入れない子どもになってしまいます。リズムある子どもの生活をつくり出すのは親の責任ですが、過干渉とガミガミ小言でなく、子ども自身が、自分の生活をつくり出

せるよう援助していくことが大切です。

## 6 いよいよ入所

学童保育によって入所の日はずいぶん早いです。共同保育の所では、保育園の卒園式の翌日からという所もありますし、四月一日からの所、入学式の当日からの所、入学式で申しこみの受付をしてその時受け入れる所もあり、実態には差があります。入所式もやる所もあれば、紹介位という所もあります。迎え入れてくれる所の条件にあわせて、親子とも準備をしなければなりません。

できれば入学式をやる前に学童保育に受け入れてもらうのがよいと思います。学校と学童保育と二つの新しい生活を一度に経験するよりは、数日でも一方の生活に慣れていけば、緊張感やとまどいは少なくなります。

一日目が無事に過ぎるとほっとします。子どもにとっても、親にとっても、指導員にとってもです。年度末・年度始めの忙しい時期ですが、親の方もがんばりましょう。

はじめのうちは出来れば学童保育まで迎えに行き、一緒に帰れるといいのですが。子どもは学校・学級という集団と、学童保育という集団を一挙に体得しなければなりません。「一年生になった」という誇らしく認めてもらいたい気持ちがある反面、甘えたい気持ちでいっぱいです。新しい生活の中で一日がんばった子どもを、まず両手で受けとめてあげてください。そして指導員からの連絡をきちんと受け、指導員への感謝も率直にあらわしたいものです。



仕事の帰りの母親は疲れていますし、買物や帰ってからの家事に気もせいっているでしょうが、子どもへの言葉かけと同時に、新入生を受け入れたばかりの指導員や学童保育の小さな先輩たちにも、ぜひ言葉をかけてほしいものです。近所に帰る子どもたちも早く仲よしになれば、学童保育からの帰り道も安心です。

## 1 指導員と話そう

時々、荷物預かり所にあずけた荷物のひきとりのように、子どもをひきとっていく親の姿をみたことがあります。自分の子どもを呼んで、ひっぱるように連れて帰ってしまうのです。どんなに急いでいても、居あわせた指導員や他の子の親にも一言あいさつ位はほしいと思いました。

子どもは親だけに育てられているわけではありません。子どもをとりまくすべての人たちの輪の中で育っているのです。親から見えているのは子どものほんの一面です。指導員の目、先生の目、友だちの目、近所の人たちの目の中に、親の知らない気づかない部分がたくさんあります。子育てとは、そのような部分を知る努力をしながら、子どもを丸ごととらえていかないと、片手落ちになってしまわないでしょうか。

放課後の子どもたちの生活の場は、子どもの成長発達にとって大切な場であり、そこで生活を共有している指導員と、我が子のことと話しあうことはとても大切なことです。たまに迎えに行った時、指導員と話せる機会を大事にして下さい。ただ、帰りの時は、指導員にとっても大切な時間なので、一人占めして長話したりしないようにという配慮も忘れないでください。